Japan Society of Educational Information

大学生のコミュニケーション能力の改善が主体性に及ぼす効果の実証研究（3）

黒川　マキ[*1]　林　徳治[*2]

＜概要＞　本稿では，「大学生のコミュニケーション能力の改善が主体性に及ぼす効果の実証研究」（平成24年度科学研究費，代表：林徳治）の一環として実施した授業実践のうち，個々の学生がポスター（絵図）の制作を通して，意図した情報の効果的な表現・伝達のあり方および短い言葉と絵図で表現する必要性を学ぶ「ポスタープレゼンテーション」の概要およびその有用性について述べる．
＜キーワード＞　コミュニケーション，プレゼンテーション，主体性，ポスタープレゼンテーション

1．はじめに

本研究は，大学の教養教育において筆者らが開発した学習モジュールを実践し，大学生のコミュニケーション能力の改善による主体性の向上を3年計画の最終目標とするものである．2年度は，先行研究での成果に加え，新たな学習モジュールを含む授業実践に重点を置き遂行した．

本稿では，新たに開発した学習モジュールであるポスタープレゼンテーション（以下，ポスタープレゼンと略記）の授業実践について報告する．また，ポスターの成果物に加え，授業後に学習内容の内省および情報共有をうながすため活用したfacebookの投稿文より，本授業の効果と有用性についてまとめた．

なお，本研究全体の概説については，「大学生のコミュニケーション能力の改善が主体性に及ぼす効果の実証研究（2）」（本学会第28回年会論文集）を参照されたい．

2．授業の概要

2012年度前期，林が担当する授業4科目においてコミュニケーション能力の改善（図1）をめざし，開発した学習モジュールをアクティブラーニングの形態で実施した．本稿では，立命館大学の教養ゼミナール（以下，教養ゼミと略記）および学校教育演習の授業15回のうち2回にわたり実施したポスタープレゼンの概要について述べる．

［受講者］・学校教育演習：3回生27名
　　主に教員志望
　　・教養ゼミ：1～4回生36名
　　テーマ「情報通信(ICT)社会におけるコミュニケーション活動」
［授業日］・2012年6月26日（1回目）
　　・2012年7月3日（2回目）

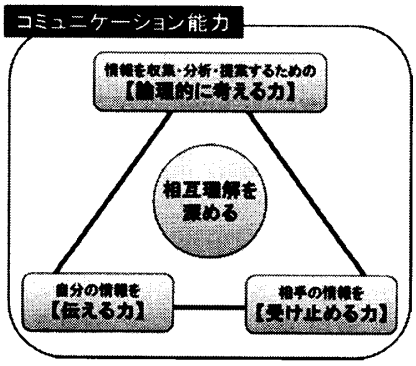

図1　コミュニケーション能力のイメージ

（1）ポスタープレゼンテーション

ポスタープレゼンは，課題に沿ったポスターの制作および口頭による説明を通して，自分のの考えを的確に表現する力および意図した情報を効果的に伝達する力の改善をめざすものである．また，絵図による情報伝達の重要性の認識をめざすものでもある．ポスタープレゼンの到達目標は次の2点である．

①自らの考えをポスターに的確に表現し，相手の視覚に訴えることができる
②ポスターを用いて意図した情報を口頭により効果的に伝達することができる

なお，本授業実施以前に受講者は，図1の3つの力を改善する学習モジュールを均等に学習しており，それら能力を活かしてポスタープレゼンに臨んだ．以下に，授業の実施内容を示す．

◆1回目

①2～3分のビデオ教材を視聴し，得た情報をもとにその内容を紹介する1枚のポスターを制作．大きさはA4用紙程度，手書き／コンピュータの利用，イラスト／写真の利用など表現手段は任意．

[*1] KUROKAWA, Maki：大阪学院大学　e-mail=makkie@oak.ocn.ne.jp
[*2] HAYASHI, Tokuji：立命館大学　e-mail=hayashi9@fc.ritsumei.ac.jp

NII-Electronic Library Service

②制作したポスターを複数人と交換し，ビデオ教材の内容が的確に表現できているかポスターについて相互評価.

1回目は，主に情報収集する力，表現する力を軸とした活動を行った．相互評価は，可視化されたポスター自体に必要な情報が含まれているか，相手の興味を引く表現であるか，その趣旨が相手にどれだけ伝わるかという観点で記述により行った.

◆2回目

①各自が「将来の夢」をイメージした1枚のポスターを制作．A4用紙程度，表現手段は任意.
②ポスターを見せながら，その意図について2分のマイクロプレゼンテーションを他の受講者3人と交替して行い，ポスター自体の評価と口頭による伝達の効果について相互評価.

マイクロプレゼンテーション（林, 1996）は，プレゼンテーションの時間・内容・人数など規模を縮小して行いその訓練に役立てるものであり，言語情報（話しことば），聴覚情報（声の大きさ・速さ），視覚情報（表情・態度），メディア利用（ポスターなど），理解度，関心度，定着度の7つの観点より相互評価を行った．2回目は，ポスター自体の表現力に加え，口頭で伝達する力を軸とした活動を行った．相互評価は，記述および二人で7点を分け合う形とした.

（2）facebookの活用

授業後には，図2に示すfacebookを活用して学習内容に関する問いかけを行った．本実践2回に対する投稿は，学校教育演習で19件，教養ゼミで16件であった．facebookによる投稿は，学習内容の内省，個々のアイディアや意見の共有，他者に受容・肯定されることによるさらなる動機づけなどが期待できた.

3．授業実践の成果

以下，facebookから得られた投稿文を抜粋してポスタープレゼンの成果および有用性についてまとめる.

（1）気づき

・ポスター自体から得られる可視化された情報よりも，ポスターの説明を聞くことで得られる情報の方が影響力が大きい.
・ポスターは，情報の吟味が必要．取捨選択の力を鍛えることで口頭での伝える力も高まるのではないか.
・ポスターは，プレゼンの一つの道具（メディア）．ポスターに頼りすぎて，自分の考えを自分の言葉で表現できないのでは本末転倒.

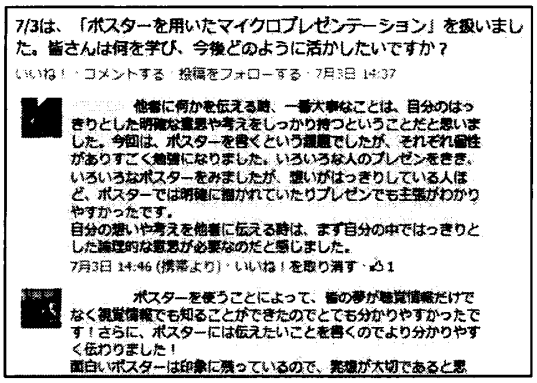

図2 facebookの画面

（2）有用性

・一人ひとり個性のあるポスターで，これからの学びにおいてモチベーションが上がった.
・教育実習のHRでの利用として，児童・生徒が1週間で一番おもしろかったことをポスターとして作り発表することに活かせる.
・絵図によるポスターなどで子ども達の興味を引いたうえで伝えることができる.

学校教育演習では，受講者が主に教員志望であるため，教育現場の視点からポスタープレゼンの有用性について記述する者が多かった．そして，受講者の多くが一様に述べていた点は，シンプルなポスターが良いという点である．この点は，学校での教材設計やスライド設計に有用である．つまり，情報を精選して表現したうえでもっと知りたいと思う欲望や疑問をもたせることで相手の興味を引き，ポスター（メディア）と口頭でのプレゼンによる効果的な伝達が可能となる.

ある事象を伝達する際に，口頭あるいはポスターなど視覚だけの表現よりも，両者を合わせることで相乗効果が期待できるという点は，想像に難くない．本実践を通して，受講生はポスターなど可視化されたメディアの特徴（イメージ生成，記憶，興味など）や，口頭など言語の特徴（即時性，一過性など）を各々段階を通して体得した.

結果より，受講生はこれらを組み合わせた表現・伝達能力の重要性はもちろんのこと，その基幹となる論理的な思考能力の必要性に気づいたと考える．さらに，気づきや興味関心など情意面において，彼らの主体性を育むうえで本実践は有用な成果を収めることができたと考える．今後，本研究を遂行するうえで，本実践がコミュニケーション能力の3つの力を組み合わせた必須の学習モジュールとして位置づけることが可能と考える.

NII-Electronic Library Service